

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書
相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する
評価ツールの開発のための研究

「連携評価ツール活用マニュアルの検討」

研究分担者 大久保 薫 札幌学院大学

研究要旨

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者における連携について、開発した連携評価シートの活用を促進していくための「活用マニュアル」について、その活用を効果的に進めるための掲載内容を整理することを目的とした。活用マニュアル案について会議及び委員会形式で意見交換・情報収集を行い、明らかとなった内容をもとにマニュアルに反映することで、効果的に活用可能なマニュアルへつなげることができた。

A. 研究目的

本研究では、開発した相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者（以下サビ児管）における連携評価シートについてその活用を効果的に進めるための活用マニュアル記載内容を整理することを目的とした。

なお、研究では、連携評価シート（Excelファイル）と、活用マニュアル（本取り組み）からなる「連携評価ツール」の開発を進めた。

B. 研究方法

これまでに開発された連携評価シートをもとに、マニュアルへの記載内容として、シートの入力方法のほか、記載すべき項目の検討、活用事例の検討を実組織会議及び検討委員会形式の意見交換から進めた。委員会は国内で活躍している相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責

任者による検討委員会（9名）を組成し、作成した活用マニュアル案について、専門的知見から情報収集をこないマニュアルに反映させた。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審査の上、承認を得て実施した。（21N020020、21N028027）

C. 研究結果

活用マニュアルについて、研究組織の会議にて検討し原案を作成した。大項目としては、「使用に関する留意点」「1. 連携評価ツールの背景とねらい」「2. 連携評価ツールの説明」「3. 連携評価シートの記入方法」「4. 入力した内容の読み取りについて」「5. 活用方法」となった。活用マニュアルの原案に対して検討委員会の実施から意見

交換を行った結果、記載内容への反映が行われた。主な反映点の1つとして、「使用に関する留意点」が挙げられた。内容として、点数そのものだけで良し悪しを決めるものではない点を追加した。本ツールのねらいとしては、連携状況の「見える化」から客観的にとらえ支援の質の向上を目指しており、ツール活用を通じた自己理解を一つの視点として整理した。また、「5. 活用方法」について、活用例の追加や、その他の活用例としてセルフスーパービジョンの視点、地域連携の現状確認、また他者との共有が可能であればお互いの認識を確認することなど、柔軟な活用が可能な視点を追記した。その他、活用マニュアルについて実践的専門的知見から情報を収集することができた。

使用に関する留意点

連携評価ツールは以下により構成しています。
①連携評価シート(Excelファイルor用紙)
②活用マニュアル(本書)
※連携評価シートのみで活用することが可能です。

本ツールのねらいについてご理解のうえご使用ください。
・連携状況について「見える化し、客観的にとらえ、支援の質の向上等を目指しています。
点数そのものだけで良し悪しを決めるものではありません。現状を把握し、今後の取り組みの参考等として活用してください。
・本ツールは様々な形で活用いただけることを想定しています。5.活用方法などもご参照ください。
・評価は自己評価の視点が中心になります。解釈の際にはご留意ください。

連携評価シートの記入欄にあたって
・シートの項目は細かな説明をあえていません。考えすぎず直感的にご記載ください。

そのほか
・連携評価シートの記入項目は50項目(+7項目)あります。
・本ツールは今後も改定を重ねていく予定です。

2
Cooperation evaluation tool utilization manual

図1 追記したマニュアル例①

活用例4 使用する大項目を絞った活用

活用場面
長らく関わっていた利用者の個別支援計画を作成しているX事業所の担当児童発達支援管理責任者が1年前に変更となつた。これまで業務上の連絡やモニタリングの際に情報のやり取りは行うものの、直接関わる機会は多くない状況であった。X事業所はこれまで定期的に新規利用者の相談をしていた先であり、今後も様々な利用者について相談さればと考えている。そこで、現在どれくらい関係性構築に向けた自らのかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているかとどうしているかといった観点を確認するため、「主体のかわり意識」に関する評価項目(25項目)に沿って評価を実施した。

◎実施者
相談支援専門員

◎想定する連携対象
児童発達支援管理責任者(1名)

活用効果例イメージ
■業務上の必要と思われるかわりはしているものの、相手の性格や価値観については理解できるようなかわかりをしていなかったことがみてきた。より信頼感をもって一緒に仕事ができるようになるため、積極的に情報交換・連絡を行った結果、困難なケースなども含めて安心して相談・連携できる関係を築くことができた。

その他の活用例
・なかなか相談できる人がいないとき、連携に関するセルフスーパービジョンの1つとして
・地域の専門職メンバーで共有し、地域の連携の現状について確認
・他者との共有が可能であれば、お互いの認識を確認など

20
Cooperation evaluation tool utilization manual

図2 追記したマニュアル例②

D. 考察

マニュアルは、初めて目にした人でも理解しやすいように作成をすすめることができた。今回開発を進めた連携評価ツールは柔軟な活用が可能となるように想定しており、マニュアルに内容も細かくなりすぎないように配慮している。一方で実践現場の中で効果的に活用を進めていくためには適切な情報量が必要である。そのような点も踏まえ、継続してマニュアルの記載内容を検討していくことも必要であると考える。

E. 結論

本研究では開発した連携評価シートの活用を促進していくための「活用マニュアル」について、その活用を効果的に進めるための掲載内容を整理することを目的とした。今回、実践家の視点から活用について意見

交換・情報収集を行い、マニュアルに反映することができた。今後も継続し、ツールの普及とともに効果的で、活用しやすいものとなるよう継続した取り組みが求められる。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

特記事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特記事項なし